



白山市立美川小学校

校長室だより

2022 Anniversary

令和4年4月号
白山市立美川小学校

白山市美川和波町ワ229
TEL 278-2063

節目の令和4年度、スタートしました

校長 今井 直人

校長室だよりも4シーズン目になりました。半分遊び心で見出しに2シーズン目は^{プレミアム}Premium (=特別な)、昨年は^{アドバンス}Advance (=進歩する)と付記しましたが、さて今年はどうしよう。^{スペシャル}Specialでは平凡、^{デラックス}Deluxeだとマツコが出てきそうだし、^{アルティメイト}Ultimate (=究極の) はちょっと大げさで、あまりしっくりきません。

年度の初めは少々固い話題になりますが、令和4年度は美川小学校にとって大きな節目、転換点になります。

まず美川小学校が「コミュニティスクール」となります。法令に沿った定義をすれば「学校運営協議会制度」をもつ学校、平たく言えば保護者や地域の声をいかし、協力をいただいて学校経営を進めるというもの。白山市で最初です。

また、同じくこの春、まちづくりの拠点としてコミュニティ組織「美川まちづくり協議会(通称“おかえり”)」が発足しました。こちらは公民館からのおたよりなどでご存じの方や、実際に組織設立にかかわった方もいらっしゃるでしょう。ここにも美川小学校と連携、協力し、地域で子どもたちを育てていくことがうたわれています。

これまでも美川小学校は、様々な教育活動で地域みなさんに協力をいただいていたのですが、要するに、行政の仕組みとして、法令によって^{かたち}かたちとなったとも言えます。うまくいっているのに、そんなのかえって面倒になるのでは…と考える向きもありそうですが、そこはこれから。

4月の初日から動き出した「連携第1号」は、「おはようボランティア」(写真)。毎朝の玄関での検温チェックを、まちづくり協議会側からのコーディネートで美川地区更生保護女性会みなさんが引き受けてくださいました。昨年まで教頭先生が朝の時間をずっとこれに費やしていた仕事で、学校によっては先生方が当番で行っているところもあり、これは本当に助かります。

学校に都合の良い視点でばかり書いているようですが、こうした連携で少しでも先生方に心と時間の余裕が生まれ、それが教育の質の向上につながることを期待しています。



今年が節目という話に戻します。美川小は満150歳。11月には記念式典が予定されています。節目、転換点、周年——いい言葉がありました。校長室だより2022 Anniversary。これでいきましょう。

Q&A 校長室からお答えします —「がっこ、いこ」—

Vol.77 Q 集団登校の朝は、お迎えに来てくれるのか、どこに行けばいいのか、はっきりわからなくて…。どうになりましたか? (1年生保護者より)



A 集団登校の朝はどこに集まるのか、誰が1年生を誘いに行くのか、学校側が机上で編成しても地域の実情に合わないこともあり、昨年度のうちに育友会の社教部員さん(地区委員、子ども会の会長さん)に取りまとめをお願いしました。おかげさまでほとんどの班でスムーズに集まることができました。お世話いただいた各町みなさん、ありがとうございました。

美川の各町は東西に長く区切られているため、集まり方が難しく、順々に誘いながら集まる班や、保護者の方が1年生をまとめていただいたところもあるようです。ただ、そうしたお迎え体制を学校で最終確認する3月の通学班会がコロナで実施できなかったことで、一部ご質問のようなケースが生じ、ご心配をおかけしました(8日に通学班会で確認いたしました)。

基本的には地域でお世話いただくことですが、不都合な場合や登校に不安があるような場合は学校にもお知らせください。